中学校　3年　総合コース　教科:　国　語

科　目	週 時 数
国語・書写	4　時間

目標		よりよい社会の担い手となるため、言葉の多面性を理解し、その表現を深めたうえで、自分の思いや考えを他者と共有し、展開させ、発信する力を養う。
育てたい力	知識 技能	知識や既習事項をもとに、これまで培った国語の力(「相手や場に応じて話す能力」「表現の工夫を評価して聞く能力」「論理の展開を工夫して書く能力」「文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力」)を活用して課題を解決する。
	思考 判断 表現	自己を向上させるため、異なる価値観や多様な考え方を受け止めながら、多角的に自らの考えを深め、目的・対象に応じた表現ができる。
	主体性 協働性 多様性	自ら問いを立て、興味関心に基づいて、考えを深めることができる。 かかわり合い協力しながら、考えを広げ、生み出す喜びを知る。 学習活動を自ら振り返り意味づけることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	【現代文】 ・「生命は」～「恩返しの井戸を掘る」 ・漢字・語句の知識 【古典】 ・万葉/古今/新古今 ・論語 【弁論文】	・表現の工夫や設定の仕方に注意して、作品を読み味わう。 ・場面の展開や表現に着目し、作品を評価する。 ・論の進め方に着目して、筆者の主張を捉える。 ・作品のテーマに関して、判断の根拠を示しながら、自分の意見を述べる。 ・和歌の詠まれた背景や作者の心情を想像しながら、和歌の世界に親しむ。 ・古典の言葉を詠み味わい、自分の文章に生かす。
2学期	【現代文】 ・「幸福について」～「最後の一句」 ・詩歌の鑑賞 【古典】 ・おくのほそ道 ・漢文のきまり	・文章を読み比べて、論の進め方や表現について評価する。 ・作品を通して、人間や社会について、自分の意見を深める。 ・情報を整理・分析して、より深く捉える。 ・当時の状況や作者の思いを伝え、古典の世界に親しむ。

授業の形態	一斉授業　ペア学習　グループ学習
教科書	『新しい国語3』(東京書籍)　『新しい書写　一・二・三年』(東京書籍)
副教材	『単元別漢字3』(秀学社)『3年間の総整理問題集』(正進社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	語句・熟語・慣用句の知識を用いて本文の内容を正確に理解する、 漢字小テストの完答
	60%	文中の語句の意味を理解する、 漢字小テストの80%の解答

※80%＝80点を取るための目安。

中学校　3年　総合コース　教科:　社　会

科　目	週 時 数
歴史/公民	5 時間　(1学期 歴史 1 公民 3 、 2学期 歴史 2 公民 4)

目標		(歴史)近現代の世界について、日本を中心に各時期の特徴と歴史的展開について、史料を活用して批判的に考察・理解し、説明することができる。 (公民)個人の尊厳と人権の尊重の意義を正しく認識し、民主主義に対する理解を深めるとともに、必要な基礎教養を培う。個人と社会とのかかわりを理解し、社会の諸問題に着目し、自ら考える態度を育てる。
育てたい力	知識 技能	個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識し、民主主義に関する理解を深めることができる。また、現代における政治、経済、国際関係などについて、因果関係を含めて理解することができる。
	思考 判断 表現	社会の諸問題について調べ、資料を集めレポートなどにまとめる。文章や図表を用いて的確に表現することができる。
	主体性 協働性 多様性	学校で学んだ知識に関連する事項を、ニュースや新聞、インターネットなどから積極的に情報を収集し、学校で学んだ知識に厚みを持たせることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	[歴史] 第3章　武家政権の展開と世界の動き 5節社会の変化と幕府の対策 第4章　近代国家の歩みと国際社会 [公民] 第1章　現代社会とわたしたちの生活 第2章　個人の尊重と日本国憲法 第3章　現代の民主政治と社会	[歴史] ・19世紀後半～20世紀前半について、時期の特徴と歴史的展開を理解する。 ・諸資料を活用し、歴史的事象を多面的、多角的に考察し、適切に表現する。 [公民] ・日本国憲法の制定の意義を大日本国憲法との関連で理解する。 ・日本国憲法の三原則を理解し、自分たちの生活と憲法との関係への関心をもつ。 ・民主主義の意義を理解するとともに、民主主義の基盤には個人の尊重があることに気づかせる。
2学期	[歴史] 第5章　二度の世界大戦と日本 第6章　現在に続く日本と世界 [公民] 第3章　現代の民主政治と社会 第4章　わたしたちの暮らしと経済 第5章　地球社会とわたしたち	[歴史] ・20世紀以降について、時期の特徴と歴史的展開を理解する。 ・諸資料を活用し、歴史的事象を多面的、多角的に考察し、適切に表現する。 [公民] ・民主主義の意義を踏まえた上で、地方自治がどのように成り立っているのかを理解させる。 ・企業の目的から資本主義経済の大まかな特徴を理解させる。 ・財政のはたらきを理解するとともに、資料の読み取りを通して財政の課題について考える。 ・地球環境問題の全体像とそれへの取り組みの様子を、具体的な事例を通して理解する。

授業の形態	一斉授業　グループ学習　ペア学習
教科書	『新しい社会　公民』(東京書籍)　『中学生の歴史』(帝国書院)
副教材	なし
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の語句の完全理解、教科書の資料・写真・地図および配布資料の完全理解
	60%	教科書の基本語句の完全理解、教科書の資料(写真・地図)の理解

※80%＝80点を取るための目安。

中学校　3年　総合コース　教科:　数 学

科　目	週 時 数
数学	5　時間

目標		数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。
育てたい力	知識 技能	数学的活動を通して、平方根、2次方程式、関数y=ax^2、相似な図形、円、三平方の定理および標本調査における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、事象を数学的に考察し、的確に問題を解決できる。
	思考 判断 表現	数学的活動を通して、平方根、2次方程式、関数y=ax^2、相似な図形、円、三平方の定理および標本調査における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察し表現できる。
	主体性 協働性 多様性	自ら課題を見いだし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	・[多項式] 文字式を使って説明しよう ・[平方根] 数の世界を広げよう ・[2次方程式] 方程式を利用して問題を解決しよう ・[関数y=ax^2] 関数の世界を広げよう	・式の展開や因数分解について理解し、計算をすることができるようにする。 ・平方根の意味を理解し、平方根を含んだ式の計算が出来るようにする。 ・2次方程式について理解し、解けるようにする。また、諸事象に応用出来るようにする。 ・関数y=ax^2やいろいろな関数について、表、式およびグラフ用いて表現し、諸事象に応用する。
2学期	・[相似な図形] 形に着目して図形の性質を調べよう ・[円] 円の性質見つけて証明しよう ・[三平方の定理] 三平方の定理を活用しよう ・[標本調査] 集団全体の傾向を推測しよう ○中学校数学の総復習	・相似の意味、三角形の相似条件、平行線と線分の比についての性質、相似比と面積比および体積比の関係について理解する。 ・円周角の定理などについて理解し、角の大きさを求めたり、図形の性質や関係について考察する。 ・三平方の定理の意味を理解し、直角三角形の辺の長さを求めたり、平面図形の性質や関係について考察する。 ・標本調査の必要性や意味を理解し、知識や技能を活用して、論理的に考察し表現する。

授業の形態	一斉授業、グループ学習および発表
教科書	『新編　新しい数学3』(東書 数学105-23)
副教材	新しい数学 基礎からの問題集3(東書)、高校数学のための準備と練習 高校数学へのステップ(東書)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テストや問題演習などの機会を多く設定する。ICTを活用する

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の章の問題、副教材の完全理解
	60%	教科書の定義・定理・例・例題・問の完全理解

※80%＝80点を取るための目安。

中学校　3年　総合コース　教科：　理　科

科　目	週 時 数
理科①/理科②	理科①　2　理科②　2　　計　4　時間

目標		化学分野では、物質の変化や量的関係について理解し、イオンとの結びつきを身につける。 生物分野では、細胞分裂や遺伝現象のミクロから生態系のマクロまで深く学び、生命を尊重する考え方を身につける。 物理・地学分野では、観察・実験等に基づき、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学的な自然観を養う。
育てたい力	知識 技能	化学変化の実験から、物質をミクロに捉えることでイオンを理解する。また、細胞分裂と成長、遺伝の規則性、生態系の関わり方を学び、広い知識と興味をもつ。 物理地学の分野の基礎知識を理解すると共に、それらを関連づけて多角的な知識や応用力を養う。
	思考 判断 表現	水溶液の電気伝導性や中和反応についての事物・現象をイオンのモデルと関連づけてみる見方や考え方を養う。また、生命の連続性について認識を深める。 実験などを通じて探究心を養い、得られた結果を分析し、適切に表現する能力を育てる。
	主体性 協働性 多様性	水溶液に電流を流す実験や電気分解の実験を行い、イオンの存在を知る。また、体細胞分裂の観察結果を踏まえて、その過程を確かめる。 実験や授業での取り組みを通じて、主体的に行動する力を養うとともに、協力して行うことの大切さを理解させる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	【理科①】単元1　化学変化とイオン ○水溶液とイオン ○酸、アルカリとイオン ○化学変化と電池 【理科②】単元3　運動とエネルギー ○物体の運動 ○力のはたらき方 ○エネルギーと仕事	以下の各項目についての習得を目標とし、それぞれより深く取り扱う。 【理科①】 □電解質と電気分解 □イオン □酸・アルカリと中和及びイオン □電池とエネルギー 【理科②】 □等速直線運動と自由落下 □力の作図
2学期	【理科①】単元2　生命の連続性 ○生物の成長と生殖 ○遺伝の規則性と遺伝子 ○生物の多様性と進化 単元5 地球と私たちの未来のために ○自然のなかの生物 ○自然環境の調査と保全 【理科②】単元4　地球と宇宙 ○地球の運動と天体の動き ○月と金星の見え方 ○宇宙の広がり 単元5 地球と私たちの未来のために ○科学技術と人間	以下の各項目についての習得を目標とし、それぞれより深く取り扱う。 【理科①】 □細胞分裂と生殖 □メンデルの実験と分離の法則 □DNA □生態系と食物連鎖、炭素循環 □科学技術とエネルギー資源 【理科②】 □地球や他の惑星、太陽の構造 □宇宙の広がり □最先端の科学技術 □循環型社会の構築

授業の形態	一斉授業
教科書	『新編　新しい科学　3』(東京書籍)
副教材	理科の自主学習 3年(新学社)　カラーブック理科資料宮城県版(東京法令出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	実験や観察から得られた知識を元に、「理科の自主学習」のほか、授業でのプリントが解ける
	60%	学習範囲の課題を完成させ、関連する範囲の「理科の自主学習」の問題が解ける

※80%＝80点を取るための目安。

中学校　3年　総合コース　教科:　音　楽

科　目	週 時 数
音楽	1　時間

目標	音楽の幅広い活動を通して芸術的な能力を伸ばし，生涯にわたって芸術を愛好する態度を育てるとともに，感性を高め，豊かな情操を養う。	
育てたい力	知識 技能	基本的な発声，奏法ができる力。 基本的な楽譜の読み書きができる力。
	思考 判断 表現	基本的な知識，技能を使って表現する力。 様々な音楽の特徴の違いを聴き分ける力。
	主体性 協働性 多様性	ペアやグループの仲間と学びあう力。 グループやクラスで協力して表現する力。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	・表現（歌唱） 「花」,「帰れソレントへ」 ・鑑賞 歌劇「アイーダ」(ヴェルディ) 世界の諸民族の音楽 ・楽典 音程 ・創作 言葉の抑揚によるメロディーづくり	・歌詞と音楽の関係を考察し自ら工夫して表現することができる。 ・西洋音楽の中の総合芸術について理解を深め，興味・関心を持って鑑賞することができる。 ・地域によっての音楽のとらえ方の違いに気づき，柔軟な耳をもってき鑑賞することができる。 ・楽譜の読み書きに必要な基本的な知識を身につける。 ・日本語の抑揚とメロディーの関わりについて理解を深め、興味・関心を持って創作することができる。
2学期	・表現（歌唱） 「荒城の月」,「旅立ちの日に」 「謡」「長唄」 ・鑑賞 文楽 歌舞伎 ・楽典 和音	・これまで培った知識や技能を生かし，互いに聴き合いながらバランスを意識し，自ら工夫して合唱をつくりあげる。 ・日本伝統音楽の歌唱法を体験する。 ・西洋音楽のそれと比較しながら，日本伝統音楽の中の総合芸術について理解を深め，興味・関心を持って鑑賞することができる。 ・楽譜の読み書きに必要な基本的な知識を身につける。

授業の形態	一斉授業　グループ学習　ペア学習
教科書	『中学音楽2・3上下　音楽のおくりもの』(教育出版)『中学器楽　音楽のおくりもの』(教育出版)
副教材	「音楽のハーモニー2・3年下」(正進社)，教師作成のワークシート
評価の方法	定期試験，実技試験，平常点（小テスト、ワークブック・ワークシート・振り返り記入状況，活動状況、提出状況等）
備考	chromebookの使用（自主練習、課題等の提出、動画・音源・資料等の確認）

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で，応用問題や発展問題も完全解答する
	②実技テスト	表現の特性を理解し，指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え，仲間の学習に貢献し，仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教師作成のワークシートの完全理解
	60%	ワークブック（「音楽のハーモニー2・3年下」）の問題の完全理解

※80%＝80点を取るための目安。

中学校　3年　総合コース　教科:　美　術

科　目	週 時 数
美術	1　時間

目標		高度な表現技術を身につけ，創造することや表現したものを他者へ伝える喜びを知る。 キリスト教美術を通して美術文化への関心を深める。
育てたい力	知識 技能	作家の生涯や時代背景を通して，作風の変遷や表現技術，作品に込められたメッセージなどを知ることができる。 制作に関わる基本的な技術と能力を身につけ，自分のイメージが表現できる。
	思考 判断 表現	創造力豊かに表現できる。 試行錯誤を繰り返して個性を引き出すことができる。 素材（材料）の特性を理解して有効に利用できる。
	主体性 協働性 多様性	PCでの調べ学習や作業を通して，アイディアをまとめたり制作に活かしたりすることができる。 他者の作品を鑑賞しながら意見交換を通して考え方や表現の多様性を知ることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	Ⅰ　レオナルド・ダ・ヴィンチに学ぶ ・　レオナルド・ダ・ヴィンチを知る ・「最後の晩餐」を知る Ⅱ　絵画 【PCによる作品】 作品1)「ここが美しい！」 ・一点透視図法とPCによる表現について ・校舎内外の撮影 作品2)「こんなのありえない！」 ・PCによるコラージュ ・作品鑑賞	・レオナルドの生涯を通して，多岐にわたる活動と作品を知る。 ・「最後の晩餐」に込められたメッセージを知ることで，作品が訴える内容を理解する。 ・絵画における遠近法のひとつを学習して，作品に取り入れて表現する。 ・校舎内外の風景の美しさを見い出し，写真として切り取ることを楽しむ。 ・校舎内外の風景を非日常的な風景に置き換えることを楽しみながら遠近感ある作品を作り上げる。。 ・他者の作品を鑑賞して表現の多様性を知る。
2学期	Ⅲ　メッセージを伝える ・PCによる情報収集 ・紙面によるアイディアのまとめ ・レタリングについて Ⅳ　プレゼンテーション 作品3)「わたし推し！」 ・ポスターによる情報表現について ・作品鑑賞	・発表者が紹介したいものの魅力を十分に伝えられるように表現の工夫する。 ・文字の美しさやフォントデザインの選択による視覚的な効果などを知る。 ・中学校2年間で学んできた配色や構図の効果などを活かしながらアイディアをまとめ上げる。。 ・他者の作品を鑑賞して表現の多様性を知る。

授業の形態	実技
教科書	『美術2・3』（光村図書）
副教材	
評価の方法	実技（作品）点と定期試験と平常点による総合評価
備考	PCを利用した調べ学習や作品鑑賞を適宜取り入れる。

到達目標	①定期試験	試験範囲を理解した上で完全解答を目指す。
	②小作品	課題作品に関わるアイデアのまとめを丁寧に行うことで作品の完成度を高めさせる。
	③提出物	期限を守って作品を提出する。
	④準備	必要な道具を確実に準備することができる。
	⑤学習態度	作業説明と指導に耳を傾け，試行錯誤を繰り返しながら制作に取り組める。

中学校　3年　総合コース　教科：保健体育

科　目	週 時 数
体育/保健	体育 2　保健 1　計 3 時間

目標		体育分野では心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。保健分野では個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
育てたい力	知識 技能	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身につけ、運動を豊かに実践することができるようにする。また、心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。
	思考 判断 表現	運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。
	主体性 協働性 多様性	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	【体育】 体つくり運動、新体力テスト *組体操（徒手体操）、体育祭の練習 体育理論 バドミントン・卓球 陸上競技（ハードル） 【保健】 感染症の予防と健康を守る社会の取り組み	【体育】 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 ・ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習で競技運営ができるようにする。 【保健】 ・感染症の特徴を知り、予防するための対策を理解する。 ・保健機関や医療機関など健康を守るための社会の取り組みを理解する。
2学期	【体育】 テニス サッカー バスケットボール 【保健】 環境の健康への影響 文化としてのスポーツ	【体育】 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することできる。 【保健】 ・環境が健康におよぼす影響を学び、健康と環境に関する課題について考察する。 ・私たちの生活とスポーツの関係やスポーツの国際大会の意義や役割について理解する。

授業の形態	一斉授業　グループ学習
教科書	『最新中学校保健体育』（大修館）
副教材	中学体育実技（学研）　最新中学校保健体育学習ノート（大修館）
評価の方法	実技試験と保体レポート、定期試験（保健編・体育編）による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

中学校　3年　総合コース　教科：技術・家庭

科　目	週 時 数
技術・家庭	技術　0.5　家庭　0.5　　計　1　時間

目標		実践的・体験的な学習活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。 技術と社会や環境との関わりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
育てたい力	知識 技能	自立に必要な知識や技術を習得し、工夫・創造する力を養う。
	思考 判断 表現	身近な生活や環境だけではなく、世界に目を向け、持続可能な社会について理解を深め、技術や知識を適切に活用する力を身につける。
	主体性 協働性 多様性	これからの生活を展望し、自ら課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を身につける。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	＜技術分野＞ ・生物育成の技術 生物育成の技術・知識 作物の栽培（実習含む） 生物育成に関する技術の評価と活用・問題解決 ・情報に関する技術 ディジタル作品の設計と制作（実習含む） プログラムによる計測・制御・双方向性のあるコンテンツによる問題解決 情報に関する技術の評価と活用	＜技術分野＞ ・生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、社会や環境に果たす役割と影響について適切に評価し活用する能力と態度を身につける。 ・情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、情報に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を身につける。
2学期	＜家庭分野＞ ・衣食住の生活 住まいのはたらき 世界各地の住まい 家族が暮らしやすい住まい方 住まいの空間の使い方（実習含む） 災害を備えた安全な住まい方の工夫 健康を守る住まい方の工夫（室内環境） 住まいの手入れを安全に行うために	＜家庭分野＞ ・住生活に関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度を身につける。

授業の形態	一斉授業　グループ学習　ペア学習
教科書	『技術・家庭　技術分野』（開隆堂）『技術・家庭　家庭分野』（教育図書）
副教材	技術・家庭ノート　技術分野（開隆堂　新学社）　家庭分野（教育図書）
評価の方法	定期試験と平常点（学習状況、提出物、授業態度、作品評価等）による総合評価
備考	学習過程で評価の観点、生徒の成長や学習状況を評価する

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100％を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

中学校　3年　総合コース　教科：外国語

科　目	週 時 数
英語	4　時間

目標		外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的に聞く、話す、読む、書く活動を行うことを通して、より実践的なコミュニケーション能力の育成を目指す。
育てたい力	知識 技能	簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 日常生活の話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 短い内容や会話を聞いて、話者の意図や内容の状況を理解できる。
	思考 判断 表現	さまざまなテーマについて、情報や自分の考えなどを他者に正しく伝えることができる。 文章の構成を意識して5文以上で書くことができる。
	主体性 協働性 多様性	聞いたり読んだことについて、感想や意見を述べ合ったり、問答したりすることができる。 自分の選んだテーマなどについて、まとまった内容でスピーチをすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	・Discover a New Side of Classmates ・What is special about Japanese pop culture? ・How do you choose your clothes? ・How can we save animals?	以下の事項を理解し、活用できるようになる。 ・受け身 ・現在完了形、SVOC（C=形容詞）、SVOO（that節） ・現在完了進行形 ・It is … （for＋（人など））＋to、want＋（人など）＋to、let [help]＋（人など）＋動詞の原形
2学期	・How can we help each other in a disaster? ・What makes a good leader? ・What does it mean to be a global citizen? ・3年間の総復習	以下の事項を理解し、活用できるようになる。 ・間接疑問文、SVOO（what節） ・現在分詞、過去分詞 ・名詞を修飾する文、関係代名詞 ・後置修飾 ・仮定法（If＋主語＋動詞の過去形、….）、（I wish I could [had] ….）（If＋主語＋were …、～.）（If + 主語+動詞の過去形…） ・主語を説明する関係代名詞 ・既習事項の総復習

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『NEWHORIZON English Course 3』(東京書籍)
副教材	EIGO NO PARTNER 3(正進社)
評価の方法	定期試験・スピーキングテスト・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行い、全テストの得点率100％を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の本文を自由に使いこなせる（読む・書く・聞く・話す） 副教材の問題をすべて解くことができる
	60%	教科書の基本文・語句を使いこなせる EIGO NO PARTNER 3の確認問題をすべて解くことができる

※80％＝80点を取るための目安。

中学校　3年　総合コース　教科:　道　徳

科　目	週 時 数
道徳(聖書)	1　時間

目標		人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び，グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。
育てたい力	知識 技能	歴史的，社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探求する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り，いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが,同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え，これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで，全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	・39巻の概観と分類 ・旧約聖書の世界 ・モーセ5書資料節 ・P資料の創造物語 ・J資料の創造物語	・聖書を学ぶ，必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び，学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と，学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と，新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき，神との関係性について知る。 ・本来あるべき，隣人との関係性について知る。
2学期	・カインとアベル ・ノアの洪水 ・バベルの塔 ・アブラハム ・イサクとヤコブ ・ヨセフ物語	・人間の持つ「原罪」について深く考える。 ・神の厳しい審判と救いの約束を心にとめる。 ・人間の自己中心性を捉える。 ・不確かな人生の歩み方を考える。 ・神の豊かな選びと，人間の愚かさについて学ぶ。 ・与えられた命を，どのように歩むべきかを主体的に考える。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	なし
評価の方法	定期試験，提出物,小テストによる総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で，応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え，仲間の学習に貢献し，仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

中学校　3年　総合コース　教科：　総合的な学習の時間

科　目	週 時 数
3L希望学/国際教養	3L希望学 1 国際教養 1　　計 2 時間

目標		ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。
育てたい力	知識 技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	個人またはグループごとに研究テーマに対する仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	「卒業研究」 講話 英会話 「国際教養」	卒業研究を通して、自分の興味関心に沿って、世界の抱える課題に目を向け、その解決の方向性について考える。 また、仮説立案とその検証、課題解決の方法について考え、探究のプロセスの理解を深める。 さらに、卒業研究中間発表会（7月）を通して、互いに参観しながら意見交換を行うことで伝達・表現力を高め、それぞれの課題に対する考えをさらに深める。
2学期	「卒業研究」 英会話 「国際教養」	卒業研究を通して、自分の興味関心に沿って、世界の抱える課題に目を向け、その解決の方向性について引き続き考える。 課題解決の方法を分析し、論文にまとめ、卒業研究発表会（2月）での発表を通し、それぞれの課題に対する考えをさらに深める。

授業の形態	一斉授業　講演　グループ学習　ワークショップ　個人の探究活動
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品（レポート、発表など）の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする